

kě juǎn ér huái zhī
可卷而怀之

卷いて之を懐にすべし 〈衛霊公第十五〉

うえだあつお
桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄

今回は「直」について考えてみましょう。孔子は次のように言っています。「人之生也，直。罔之生也，幸而免 (Rén zhī shēng yě, zhí. Wǎng zhī shēng yě, xìng ér miǎn)」(人の生くるや直なり。之を罔して生くるは、幸いにして免るるなり)〈雍也第六〉。人はまっすぐでなければ生きていけない。これを無視して生きていられるのは、たまたま運がよかったからに過ぎない、と。「罔」とは「無視する」ことです。「直」を正直と読み変えても通じます。

この論理の裏を返せば、現実には、人は正直でなくても生きていける余地がある、ということにもなります。しかしそれは、偶々そうになっているだけで、多くの人々が、それぞれの秩序の中で生きていくためには、やはり正直であることが必要だということです。

では、正直でありさえすれば生きて行かれるのかというと、必ずしもそうとは限りません。そこで孔子はまた次のようにも言っています。「直而无礼则绞 (Zhí ér wú lǐ, zé jiǎo)」直にして礼無ければ、則ち絞す〈泰伯第八〉。いくら正直であっても礼がなければ、その生き方は窮屈なものになってしまう、と。この場合の「礼」とは、社会通念を形にあらわしたものの。人が社会生活を送る上で必要な約束事のことです。今風に言えばモラルとマナーとセレモニーが合わさったものとみることができます。法概念が確立していなかった当時においては、これこそが社会秩序を保つ唯一の規範でした。この規範を無視してまで、己に正直に生きようとすれば、それは息苦しくなるばかりです。規範の中で生きてこそ、正直さは保たれる、というわけです。

孔子は更に次のようにも言っています。「好直不好学，其蔽也绞 (Hào zhí bù hào xué, qí bì yě jiǎo)」直を好んで学を好まざれば、其の蔽や絞す〈陽貨第十七〉。好んで正直になろうとしても、学ぶことを好まなければ、その弊害は、やはり窮屈なものになってしまう。ここで言う「学」とは、先人の知恵から真摯に学ぶということです。学ぶことを忘れた独りよがりの正直さは自分を苦しめるだけです。

では、学びの基準となる社会規範が崩れた場合はどうなるのでしょうか。孔子はまさにそういう時代を生きた人でした。『論語』の中に蘧伯玉という人物が登場します。衛の国の大夫で、孔子が日頃から君子として評価していた人物です。ちなみに当時の衛は、孔子の祖国の魯と同様、君主が無能であったため社会秩序が大いに乱れ、さすがの孔子も去らざるを得なかった国です。孔子はこの人物のことを次のように評しています。

「君子哉！蘧伯玉。邦有道，则仕。邦无道，则可卷而怀之 (Jūn zǐ zāi! Jù bó yù. Bāng yǒu dào, zé shì. Bāng wú dào, zé kě juǎn ér huái zhī)」(君子なる哉。蘧伯玉。邦に道有れば、則ち仕う。邦に道無ければ、則ち卷いて之を懐にすべし)〈衛霊公第十五〉。実に見事な指導者だなあ、蘧伯玉という人は。国がまともなときは立派に仕え、国がどうしようもなくなると、正直のすべてを懐に巻き込んで、じっと耐えながら時期を待つこともできる、と。指導者たる者、ただ正直なだけでは任務を全うすることはできない。その正直を「捲いて懐にする」度量も、先人から学んだ智慧の賜物、ということでしょうか。

(わんりい「中国語で読む漢詩の会」講師)